

# 「生きる力」を語ってもらおう

地域や企業の方に「出前授業」を実施してもらう際には、次のようなねらいの説明と依頼をしておく。

授業のねらいは、▽子供たちに夢や希望・目標を持たせる▽大人の魅力、活力、素晴らしさなどを教える▽課題の発見や解決に向けた主体的、協働的な学びを体験させる——というもの。

話の内容は、講師の仕事や趣味、日々の活動などの人生経験で培ってきた知識、技能、キャリアや社会で必要な「生きる力」としての気力、体力、学力、人間力、社会

性などである。人と仲良くすることや働くこと、ボランティア活動、昔語り、国際理解、環境問題、地域の産業などの話題になる。

事前の打ち合わせでは、担当の講師が学校の教師と話し合いを深める。教師の期待、目的、内容、方法、学校や子供たちの実態、使用機器や教室などについて、十分に相互理解する。

一単位時間で小学校は45分、中学校は50分で話を組み立てる。教師から講師紹介を行い、今の仕事や成功談、失敗談、趣味や特技、最近の話題などについて自己紹介

## 多様な先生に学ぼう

学外人材活用と体制



NPO法人スカイ学校支援ネットワークセンター  
理事長 森本 芳男

④

大きくて迫力のある声を大切にす  
る。

② 専門用語は避け、できるだけやさしい言葉で話す。

③ 座って話すのではなく、時々子供たちの中に入り、反応をみる。

④ 黒板を有効に活用する。講師の名前やキーワードを記し、子供は書き写す中で記憶する。

⑤ 話だけでなくクイズやゲーム、実技や実験、作業、話し合い活動を取り入れる。

⑥ 小道具（実物、映像、衣装）などを活用して印象に残る工夫を図る。

⑦ 子供たちや学校の問題を入れる。良い点を探してほめる。

⑧ 子供たちの発言を引き出して参加させる。

⑨ 担任の先生と連携を密にして、先生の出番を演出する。

⑩ 失敗談は良いが、「学生時代にこんな悪さをした」という事例は避ける。

教師との役割分担で配慮する点では、授業の責任者は教師であり、外部講師はゲストだというスタンスを重視したい。さらに、教師と役割を分担しながら絶妙のコンビネーションある授業を生み出す点や授業進行のサポートと子供たちの掌握は、教師に遠慮なく依頼するなど押さえたい。

出前授業は、教師にとっても素晴らしい生きた教材だ。同授業の提案や問い合わせは、スカイ学校支援ネットワークセンター（TEL 03-5608-1303）。